

6月議会

9月の市長選挙を前にして最後の議会が6月9日から24日まで行われました。日本共産党議員団(5人)は、旧味舌小学校跡地問題をはじめ、介護、国保、待機児童、財政問題等を取り上げ、市民の願い実現、清潔な市政へと奮闘しました。その主な内容をお知らせします。

旧味舌小学校跡地

市長「売却方針」を凍結、防災空地として残すと表明

「旧味舌小学校跡地の活用を考える会」のみなさんが、「地域の宝」を売らないで7年間で、署名11,000筆を提出

森山市長は、6月議会閉会のあいさつで、9月の市長選挙への出馬表明とともに、旧味舌小学校跡地の「売却方針」を「凍結」し、防災空地として残すことを表明しました。

この7年間、「考える会」と地元をはじめ多くの市民のみなさんが、「地域の宝、旧味舌小学校跡地を売らないで!残して!」と運動をつづけ、11,000人を超える署名を市へ提出してきました。「売却方針の凍結」は、こうしたねばり強い市民運動の大きな成果です。



凍結ではなく「売却方針そのものを撤回」すべきです

市は、すべての校舎をとりこわし、隣接する正雀保育所を民営化し、規模を大きくして建て替え、体育館も新しく建て替える計画です。

跡地は、市が指定する「災害時の緊急避難場所」であり、「大災害から命を守る」拠点として役割を果たせるようにすることが重要です。同時に、摂津市は、その活用方法について、地域コミュニティ活動の拠点として利用できるように住民のみなさんとしっかり協議を行うべきです。



7年に及ぶ市民の粘り強い運動が市の方針を転換させる



市長と維新市議の反社会的勢力との関係 真相を明らかにし、清潔・公正な市政へ



日本共産党は、おおさか維新の会所属市議が、自らも当事者として関わった事実として、昨年12月議会以来、議場において発言してきた「市長と反社会的勢力との関係」について質問しました。

市長は「過去に関わってきた方々が反社会的勢力に属してなかったと認識している。今は関係を絶っている」「勝共連合・統一教会との関係については、過去に選挙の応援をしてもらったが、今は関係を絶っている」と答弁しました。しかし、ことは摂津市が掲げる「暴力追放宣言」や「暴力団排除条例」の意義や清潔・公正であるべき自治体の基本姿勢に関わる問題です。市長および維新市議は、市民の前で真相を明らかにするべきです。

市の基金(貯金)は史上最高の146億円 財政力を生かし、トコトン市民のくらし守れと主張

6月議会では、前議会で凍結された「敬老祝金等の予算」が復活しました。摂津市は市の基金が146億円あり、「財政力」は府下一番。民間企業に例えれば優良企業です。一方、市民のくらしの実態はたいへんで、納税者の年間所得金額は1997年度に比べ73万4千円減少し、所得200万円以下の方が7割近く占めています。

日本共産党は府下トップクラスの財政力を、今こそ市民のくらしをトコトン守るために生かし、身の丈にあった計画的な財政運営を行うよう求めました。

1人で悩まず、何でもご相談ください

別府 2-22-22
(06)49965-49973



増永 わき

千里丘東 5-11-63002
(06)63882-63001



ひろ 豊

正雀本町 1-3-7203
(06)6381-7165



山崎まさかず

鳥飼野々 3-24-3
(072)653-0715



安藤かおる

昭和園 8-11-108
(072)634-0807



野口ひろし

毎月第3火曜日が法律相談です(弁護士が対応します)

あらかじめ議員までご連絡ください。